



長い道のりの先に かけがえのない体験

ギズボーンへ行ってきました！

7月31日(月)から8月7日(月)までの期間、姉妹都市交流の一環として17人(学生12人、引率5人)の派遣団がギズボーン市を訪問。ホームステイや学校訪問などを通してニュージーランドの文化に触れ、生徒や市民との交流を深めました。

8月2日(水)

飛行機・バスを乗り継ぐ長時間の移動を経て、リトンハイスクールに到着。鼻と鼻をくっつけるマオリ族の伝統的なあいさつ「ホンギ」で温かく迎え入れられ、緊張していたみんなは少し恥ずかしがりながらも笑顔に。現地の生徒たちと互いに歌やダンスを披露し合いました。ホストファミリーと初対面して、ニュージーランドでの4泊5日のホームステイが始まりました。

8月3日(木)

授業を見学した後、農場でヒツジの毛刈りを体験！子ヒツジにミルクをあげたり、馬に乗ったりと、豊かな自然に囲まれて育ったニュージーランドの動物たちとの触れ合いを楽しみました。

8月4日(金)

地元の新聞社ギズボーン・ヘラルドから取材を受け(後日新聞に掲載)、その後リトンハイスクールの生徒とともにモレレ温泉へ。温水プールやバーベキューを楽しみました。

8月5日(土)

団員たちはホストファミリーと自由行動。名所を見学したり、ファミリー・マーケットへ出かけたりと思いの1日を過ごしました。

8月6日(日)

それぞれのホストファミリーに別れを告げて、ギズボーンを発。別れを惜しんで涙ぐむ団員やホストファミリーもいました。ハグをしたり、再会の約束をしたり…。ホームステイを通して、団員みんなが貴重な体験をして、野々市市とギズボーン市の友好の懸け橋となってくれました。この絆は、今後の姉妹都市交流のさらなる発展の礎となることでしょう。



参加生徒の感想

本当に貴重な体験をすることができました。特にホームステイでは、英語とジェスチャーを使い、たくさん話すことができました。もっと英語をスラスラ話せるようになり、現地の人たちの「声」を聞きたいです。

辻口詩乃

ホームステイで最初は英語が話せるか心配だったけど、ジェスチャーや表情をうまく使って楽しく交流できたので良かったです。ニュージーランドにいた全ての時間がいい思い出になりました。参加する機会を与えてもらって感謝しています。

屋敷史弥

4日間のホームステイでは、1日中英語での会話でした。不安もあったけど、学んだ英語を使って楽しい時間を過ごせました。参加させてくれた両親、一緒に行った友達、スタッフの方々、現地で温かく迎えてくれた皆さんに感謝しています。

羽柴奏子

自然が豊かで、マオリの文化も大切にしていることが分かりました。ホストファミリーとも英語でコミュニケーションをとることができて、とても貴重な経験となりました。

岡谷葉優

研修に参加して、さまざまな体験をしました。食文化や学校生活、日常生活など最初は戸惑いでしたが、日が経つにつれてこの国のことが少しずつ理解できました。日本と違う世界に触れる機会に恵まれ、貴重な経験となりました。

林 蓮大

日本は原子力発電があり、火力発電がほとんどです。ニュージーランドは、原子力(核)がなく、約7割が自然発電のエネルギーです。ニュージーランドは自然と共存できる良い国です。日本もまねできるといいなあと思います。

辻口幸貴

言語の違いは私をとて苦しめました。話すことより聞き取るのほうが難しく、何度も聞き直してしまいました。しかし、最後のほうは聞き取れることが多くなりました。この経験を大学受験などこれからの未来に役立てていきたいです。

萩原奈々

ホームステイというなかなかできないことを体験させてもらい、自分の英語力やニュージーランドの文化について存分に知ることができました。貴重な体験は人生の大きな糧として今後に生かしていきたいです。

大澤朋佳

外国の文化やマナーを目で見て耳で聞いて心で感じることで、日本の良さの再発見にもつながりました。仲間とともにギズボーンと野々市市のさらなる親善を深める架け橋になれて光栄です。関わってくださったすべての人に感謝！

来丸彩也香

今までに見たことのない学校生活や生活習慣を知ることができ、今自分に必要な英語力がどのようなものか考える機会になりました。自分の将来やりたいことの幅も広がり、とても良い経験になったと思います。

宮本里紗

この研修で自分のいた世界は狭かったと感じました。多くの自然体験や日本との価値観の違い、現地の人の優しさや温かさにふれ、世界の大きさを知りました。この経験を踏まえ、将来は世界に貢献していきたいです。

高桑 滯

リトンハイスクールで生徒たちが日本に興味を持ってくれたのがうれしかったです。ホームステイ先で折り紙や味噌汁、抹茶、きな粉について英語で説明して作り、一緒に食べて喜んでもらったことや、狩りに行ったことが心に残っています。

得田真弘